

第88回選抜高校野球大会(センバツ)が20日、兵庫県西宮市の甲子園球場で開幕する。本県からは青森山田、八学光星が、県勢初の同時出場。東北勢初の優勝旗を目指し、31日までの12日間、全国の強豪に挑む。八学光星は大会第2日の第3試合(21

日午後2時開始予定)で開星(島根)と、青森山田は、大会第6日の第1試合(25日午前9時開始予定)で、春連覇を目指す敦賀気比(福井)と激突する。両校のセンバツまでの軌跡、成長の歩みを伝える。

(兼平昌寛、本田海輝)

青森山田

2015年7月16日、六戸メイプルスタジアム(六戸町)。春の東北大会を制した青森山田は夏の県大会4回戦で黒石商と対戦していた。前日までの猛暑から一転、肌寒ささえ感じられたこの日、山田高打線のバットも温りがち。好投手・村上を打ちあぐねた。2-2で迎えた九回裏、2死・三塁から主戦・小野が三塁内野安打を許し、まさかのサヨナラ負けを喫した。公立校に負けた悔しさ、そして、チームの大



秋季東北地区高校野球大会で優勝し、喜びを爆発させる青森山田ナイン=2015年10月15日、青森市営球場

自分で考え、行動に責任

黒柱の3年生が抜けた虚無感。『負けを引きずって、しばらく力が入らなかつた。対黒石商戦でもマスクをかぶっていた捕手・村山直也は振り返る。授業や清掃など普段の生活をして8月、中学生チ

ームの青森山田リトルリーグの前の『野球』ニアで監督を務め、三森を合言葉に掲げ、選手たちや齋藤らを指導した経験。『チームが『変わらなければ』という雰囲気になった』と村山、日常生活が変わると、一人一人

① チームの成長

の野球に対する姿勢も変わっていった。内山厚思主将は『これまでは監督、コーチの目がある所ではきんぐとやるが、そうではない、うごかない、うごかない、自分でも考え、自らの行動に責任を持つようになつた』と話す。

2強 聖地へ 青森山田・八学光星 センバツ出場

八学光星

『負けてしまつてセンバツの可能性は低いけど、ゼロではない。今しっかり練習をして、後悔しないようにしよう』。センバツが懸かった昨秋の東北大会決勝戦で、ラバール校・青森山田に敗れた八学光星。練習に身が入らない状態が続いたが、奥村幸太主将は選手同士のミーティングで仲間を鼓舞。ナインは悔しさを原動力に、冬場の練習に励んだ。



東北大会決勝で青森山田に完敗し、肩を落としてベンチへ引き揚げる八学光星ナイン=2015年10月15日、青森市営球場

おごり捨て、真摯に鍛錬

で下した光星ナイン。青立ち、センバツ出場を確信した。『森田には直前の県大会、実なものにする自信があった。準決勝で5-3で勝つて、どこかでスキがあった。選手たちは頂点にた』(奥村主将)。

完封負け。『手も足も出ないような状態だった』(仲井宗基監督)。決勝が行われた青森市営球場から、八戸市までの帰りのバスの中は、誰も言葉を発しなかった。奥村主将は『心のどこかで、いつも甲子園は行けるものだと思ひ込み、油断があった』。主戦櫻井一樹は『新チームは調子に乗っている部分があった。悔しさはあるが、負けて成長させてもらった』と素直に語る。

敗戦以降、『どんな時も、自分たちのやるべきことをしっかりとやる』と、おごり捨てた選手たち。それまで以上に1分、1秒を大切に、技術向上のため真摯(しんしん)に野球に取り組んだ。仲井監督は『チームが明るくなった』と感じる。

野球部員『青雲寮』の通路には、悔しさを忘れまいと、今決勝の結果を報じる新聞記事が張られている。